

遊技機リサイクルは エゴから エコへ

～環境と福祉にやさしいリサイクルの取組み～

東日本大震災を機に、改めて地球温暖化防止や環境問題への社会の関心が高まっている。遊技業界においても目下、電力供給不足への対策として節電施策を推進中だ。その一方で、使用済み遊技機においてもエコにつながる活動が着実に進められている。節電対策と同じく、これからの遊技業界の重要なテーマとなる遊技機のリサイクルに注目してみたい。

全国規模で進む リサイクルシステム

毎月、毎週のようにパーラーで入れ替えられる遊技機。店舗関係者にとつての関心事はもっぱら新たに導入した台の動向かもしれないが、外された台に対しても目を向けてもらいたい。

外された遊技機は、遊技機メーカーに下取り（買い取り）されたり、中古機として転売されたり、あるいは自店や販社等の倉庫に一時保管されたりと、取り扱いは様々だ。このうち、中古機としても使えず、下取り等の対象にもならないものがある。こうしたいわゆる使用済み遊技機（廃棄台）が回収・解体され、リサイクル処理されている。

いまでもこそ遊技機のリサイクルが進められているが、システムが確立されるまでは、使用済みの遊技機が野積みや不法投棄されるなどの問題が全国で散見されていた。特に1995年に発覚した埼玉県寄居町の野積み廃棄台は、テレビや新聞等でも大きく取り上げられ、業界への非難が相次いだ。

これを機に業界内でも使用済み遊技機の適正処理の気運が高まり、2000年には1都3県遊協（東京、神奈川、千葉、埼玉）による任意団体「首都圏遊技機リサイクル協議会」が発足、

遊技機のリサイクル料金をメーカーが負担するリサイクルシステムが開始された。同協議会は09年に一般社団法人「遊技機リサイクル協会」となり、業界を代表するリサイクル機関として、システムの全国普及を推進している。

現在のシステム参加県遊協は24都府県（方面）遊協。リサイクル費用を負担するメーカーはパチンコメーカー24社、パチスロメーカー5社となっている。

資源の再利用と 障害者支援にも貢献

このリサイクルシステムの特徴は、先述の通り、リサイクル費用をメーカーが負担している点にある。そのためパーラーは無料で廃棄台を出ることが可能で、さらに排出時に液晶があればその分はリサイクル業者が買い取ってくれるなど、最終排出者であるパーラーによって使いやすい仕組みとなっている。

活用方法は、協会が選定する指定リサイクル業者へ連絡し、引き取り希望日等を伝えると、業者が回収してくれるという流れ。リサイクル業者に引き渡した段階で、排出事業者がパーラーから協会へと移るため、パーラーは産業廃棄物法に係る手続き等が不要となる。

指定リサイクル業者に引き取

社会問題化した 廃棄台の野積み

大量に投棄された使用済み遊技機（廃棄台）が社会問題化したのは1995年。当時、埼玉県寄居町内の4カ所に約4万台の廃棄台が野積みされ、付近住民から、悪臭の苦情とともに火災や崩落の危険性を指摘する声が行政に寄せられ、住民運動にまで発展した。

この状況を一般紙や各テレビ局が一斉に取り上げ、地域住民の怒りの声とともに報道。その後も、全国各地で同様の廃棄台の野積み、不法投棄が明らかとなり、パチンコ業界へ非難の目が向けられた。寄居町内の放置台は、廃棄台解体処理業者が経済的に窮して捨てたものだったが、結局、地域の自治体とともに業界団体が処理費用を負担する結果となった。

この野積み問題の反省から、処理業者任せという考えを改め、使用済み遊技機の適正な処理のあり方などが本格的に議論され始めた。



当時、問題となった寄居町の廃棄台。通学路のすぐ脇に乱雑に野積みされていた。



使用済み遊技機は手作業で丁寧に分別される。また、障害者や高齢者の雇用、自立支援の役割も担っている。写真は、アキラ産業の作業現場。

協会の指定リサイクル業者

(2011年7月時点)

北海道地区	(株)ミチウエ	TEL.011-764-8332
東北地区	(有)エム・アール・アイ・ジャパン	TEL.017-763-3344
関東地区	(株)国際資源リサイクルセンター	TEL.028-687-1511
"	多摩デリバリー(株)	TEL.042-540-0681
"	(株)ビーネット131	TEL.044-270-3791
"	(有)アール・イー・コーポレーション	TEL.026-254-7768
"	関根金属工業(株)	TEL.0277-30-6262
"	(株)エコネコル	TEL.0544-58-5800
中部地区	(有)共和リサイクル工業	TEL.0568-36-2660
"	(株)昌栄	TEL.0568-71-0707
"	中部第一輸送(株)	TEL.0567-96-0081
近畿地区	(株)姫路環境開発	TEL.079-233-3353
中国・四国地区	アキラ産業(有)	TEL.0898-33-0099
"	(株)藤蔭工業	TEL.0848-23-4616
"	(株)金平鉄鋼	TEL.0869-72-2233

られた廃棄台は、協会の指針に則して適切に処理される。まず、再利用できるパーツ(部品)をメーカーに戻すことを第一としている。以前、東京都知事がパチンコ産業を資源浪費型産業と指摘し、パチンコ税の導入を検討したことがあったが、社会からそうしたイメージをもたれないためにも、パーツリサイクルの促進は業界にとっても重要なテーマとなっている。

パーツリサイクル以外には、金属、アルミ、プラスチック、鉄などに分別。地球温暖化防止対策の観点から焼却する部分を極力減らし、他の素材として再使用されており、現在、廃棄台に占めるリサイクル率は約98%まで高まっている。また、解体過程から出る木材やパチスロ筐体部分のMDFを炭化し、脱臭消臭剤「スポーツチャコール」を開発、様々なスポーツイベントに協賛して好評を得ている他、液晶部分を再利用した「デジタルフォトフレームスタンド」も商品化している。

さらに廃棄台の解体作業を通じて、障害者の自立支援につなげている点も同システムの大きな特色といえる。

愛媛県にある指定リサイクル業者のアキラ産業では、自社で障害者施設を運営し、障害者約70名が遊技機のリサイクル業務

を行い、将来的に自立していくよう支援している。同じく東京の指定業者、多摩デリバリーでも福祉作業所(授産施設)へ廃棄パチンコ台の液晶周りの役物や飾り部分を持ち込み、解体作業を委託。その対価として賃金を支払う取組を続けている。

遊技機のリサイクル作業は、解体の納期がないこと、壊してもよいこと、飾り部分が派手で飽きないことなど、障害を持つ人の作業として非常に適した仕事といわれている。さらに年間を通じて、作業時期にムラがないことから、福祉作業所では定期的な仕事として捉えることができ、安定収入の見込みが大きく喜ばれている、ともいう。

こうした活動を軌道に乗せ、さらに全国的な広がりを持たせるためには、使用済み遊技機の確実な回収、確保が重要になっている。

**エコを通じて
明るい業界発展へ**

近年、以前のような野積みや不法投棄の問題は少なくなってきた。しかしその一方で、使用済み遊技機が海外に不正に輸出されるケースや、パチスロ4号機が闇スロとして不正使用されるケースが散見されている。こうした背景には、液晶ごと高値で買い取るプロカーの存在な

どがあり、実態のよく分からない業者に遊技機を流してしまいうことが起因している。

昨年、市場に登場した遊技機はおおよそ350万台で、これに対し、メーカーのリユースや下取り、リサイクルシステムによって回収・処理された台数は約200万台弱といわれている。

野積み問題を再び起こさないためにも、パーラーに導入された台は100%、メーカーや適正なリサイクル業者によって処理される仕組みを目指す必要があるのではないだろうか。

それにはメーカーやパーラー、販社、運送会社、解体業者など遊技機のリサイクルに関わる全ての関連業者の協力が不可欠だ。高く売れるならどの業者でもよいなど、自己の利益だけを考えるのではなく、環境や福祉にも貢献する遊技機リサイクルを実現させ、明るい業界の発展を目指したい。



廃棄台の木枠等を炭化したリサイクル商品の「スポーツチャコール」。